

# 神戸・台湾アートプロジェクト 参加アーティスト

神戸へ「ようこそ！」

歓迎！

## 曾 琬婷

台湾

屏東生まれの曾琬婷は、農園芸科出身で植物試験などに従事していたが、日本の押花に関する一冊の本に出会い、押花アートの道に進む。植物材料が持つテクチュアや特性を巧みに利用し、自然に対する感銘や体験を通して、特色ある押花の印象を表現し、アートを創作する。

2002年米国フィラデルフィア花展世界押花コンペで金賞及び大賞を獲得。最近では芸術グループ活動に積極参加、アートによるコミュニティ活動など、多様な創作を目指している。

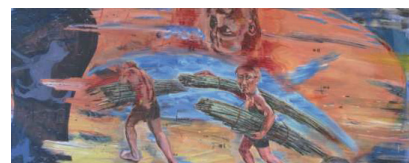


## 張 新丕

台湾

フランスのパリ国立高等美術学院を卒業したアーティスト張新丕は、台湾アート及び文化界で広く知られた人物だ。パリ、オーストリアなどで個展を開催。屏東に戻って後に、米倉芸術家工作室を創立した。

地域のまちづくりや各種の芸術のイベント活動に参加、アートが社会に関わる活動を推進する。不断に新たな観点から「客家」の解釈を試み、現代芸術と伝統芸術の刺激的な交錯の中から、客家の再認識の機会を外部に提供しようとしている。



## 中川 和寿

仙台

1982年生、仙台在住。仙台を拠点に2000年より活動。「日常を緩やかに紡ぐ」をテーマに、日々の暮らしや自身の演奏する音楽などから想起されるイメージを、心象風景画として制作。年に数回のギャラリーでの個展の他、野外イベントやCLUB、LIVE HOUSEでのライブペインティング、仮設住宅のペインティングも行っている。今年の石巻・台湾アートプロジェクトにも参加した。



## 佐藤 紘子

大阪

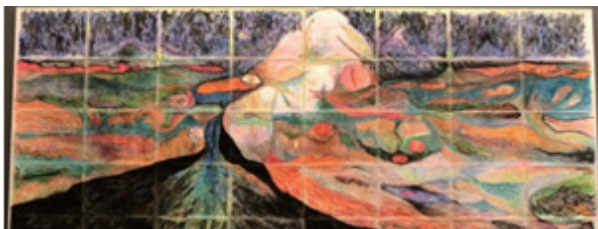
大阪府在住。現在、京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻2回生在籍中。日常から素材をすくい集め、絵画にしている。2012年シェル美術賞2012に入選したほか、グループ展や個展も多数おこなっている。今回の神戸ビエンナーレ2013「ペインティングアート」コンペティションに「wherever you are now...」を出品、大賞を獲得した。



# 高濱 神戶

## 浩子

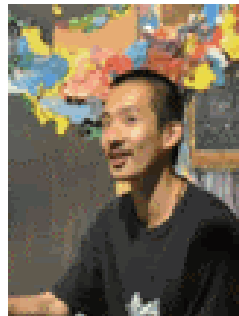
神戸生まれ。神戸在住。美術学校では日本画を学び、卒業後は画材を問わず絵を描き展覧会で発表を重ねる。様々な分野のアーティストと交流し、表現活動は平面にとどまらず舞台美術や衣装デザインなど時間芸術にもおよぶ。ベンガルの風土や文化や人、タゴールの思想に強い影響を受ける。最近では、野生をテーマにゲストを招きともに一夜過ごす「はなしの旅」(6回)や東北支援のアート活動もおこなっている。



# 多田 神戶

## 陽一

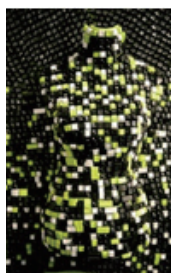
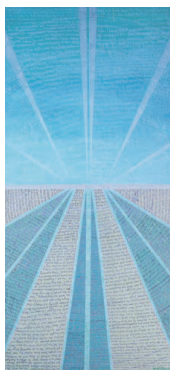
正規の美術教育を受けたことはなく、スケボーに熱中していた人間だった。ある時スケボーに絵を描いたことがきっかけで、次第に絵にのめり込んでいった。『神戸ビエンナーレ 2011』がきっかけで宮崎みよし氏の指導を受けるようになり、高架下のアート活性化にも取り組んでいる。2012年には、台湾橋頭芸術村のアーティスト・イン・レジデンスに参加、今年の石巻・台湾アートプロジェクトにも参加した。



# 竹内 神戶

## 功大

ネットスラング「Orz」を閉鎖的な自身に例え、固定的かつ現代的な素材と連続をテーマに作品を展開するアーティスト。神戸元町に開設した自身のオフィス「Dot-K」(ドット ケイ)の開設企画として「Dot系男子」を進行中。グラフィックをベースに平面、立体問わず様々な技法で制作している。今春より新たなフィールドとして「神戸波止場町 TEN × TEN」での活動も開始した。石巻・台湾アートプロジェクトにも参加した。



# 宮崎 神戶

## みよし

彫刻家であり、アートの発信者である。金沢の美術大学を卒業後、生まれた神戸で活動したいと神戸を中心に野外芸術の運動やNPO活動などユニークな活動を続けている。拠点は元町のコトコト商店街の一角にあるギャラリー&カフェ「プラネット Earth」で、注目アーティストの展示会や神戸ビエンナーレ 2011の元町高架下会場もコーディネートするなど神戸のアートシーンを盛り上げている。神戸ビエンナーレ 2013のディレクターも務める。



神戸・台湾アートプロジェクト

11月1日 - 12月1日 みなとのもり公園

神戸ビエンナーレ 2013 協賛事業

